



肛門周囲膿瘍・乳児痔瘻の話

1ページ



こんなこともしています三重病院「花の会」/リース宿舎(看護師宿舎)の名称が決まりました!/今月のイチオシ図書

2ページ



糖尿病ワンポイントアドバイス/春の肥満教室のお知らせ/「糖尿病教室2月」のお知らせ

3ページ



今月の植物を探せ!vol.8/アレルギー教室のクッキング/外来からのお知らせ/外来診察のご案内

4ページ

肛門周囲膿瘍・乳児痔瘻

の話



小児外科が扱う疾患にはいろいろなものがありますが、今回はその一つ、肛門周囲膿瘍・乳児痔瘻についてお話ししましょう。



赤ちゃんが下痢をしたり、おむつかぶれになったりした後に多いのですが、**肛門のまわりが赤く腫れて、痛がるようになり、さらに膿がたまってくることがあります。**



これを**肛門周囲膿瘍**と言います。直腸と肛門との境目には凹みがあり、この凹みから肛門腺にばい菌が入って感染をおこし、肛門の周囲の皮下に膿(うみ)のたまり(膿瘍)ができた状態です。この膿瘍は自然につぶれて膿が出たり、膿瘍を切開して膿を出してしまうといったん症状は落ち着きますが、腫れたり膿が出たりを繰り返したりすることも多いのです。**再発を繰り返して肛門腺と皮膚との間にトンネル状の管ができ、皮膚に小さな穴(瘻孔)が開いてしまうことがあります。**



これが**痔瘻**です。乳児にできるので乳児痔瘻です。もちろん新生児(0か月児)にもできることがあります。病気の原因についてはよくわかっていません。わざわざ乳児痔瘻というぐらいですから大人の痔瘻とは違う点があります。比較的良くみられる病気です。

決して珍しいものではありませんが、そのほとんどが男児です。女兒にはほとんどみられません。多くの場合は肛門の横側に生じます。



そして、ここが最も異なるのですが、大人の痔瘻は最終的には手術をしないと治らないことが多いのに比べ、**乳児痔瘻は1~2歳までにはほとんど治ってしまい、再発しなくなってしまう**。そのため赤ちゃんの肛門周囲膿瘍・乳児痔瘻に対しては、膿瘍が大きい場合には前述したように切開して膿を出してあげたり抗生剤の内服・静脈注射を行ったりすることもあります。排便後のおしりの洗浄、抗生物質入りの軟膏の塗布などで対処することがほとんどです。免疫調整作用があるとされる十全大補湯という漢方薬を使用することもあります。1~2歳まで待っても再発を繰り返し痔瘻が残った場合等には手術が必要になります。



治るまでに時間がかかる病気ですが、**あせらずに気長につきあっていきましょう**。ねばってればほとんど治っていく病気です。
(小児外科 中澤 誠)